

# SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 23年 10月  
(第40 ～43週)

発行年月日：平成23年(2011年) 11月16日  
発行 行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>				感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 <sup>*1</sup>			
		1～9月		10月		1～12月		1～9月				10月		1～12月					
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国				
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	111	0	19	0	133	0	4		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	5	0	3	0	4	0	0		
	ペスト	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0		
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	2	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	2	0	0		
	結核	237	22,663	29	2,543	251	26,704	ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0			
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0			
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	ボツリヌス症	0	3	0	0	0	0	1	0			
三類	コレラ	0	8	0	2	0	10	マラリア	0	57	0	13	0	76	0	0			
	細菌性赤痢	2	226	1	33	2	235	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0			
	腸管出血性大腸菌感染症	65	3,212	3	277	66	4,131	ライム病	0	6	0	1	0	13	0	0			
	腸チフス	0	18	0	2	0	32	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0			
	バラチフス	0	20	0	1	1	21	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0			
四類	E型肝炎	0	48	0	1	0	66	五類	類鼻疽	0	2	0	0	0	4	0	0		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0		レジオネラ症	10	575	0	83	10	751	0	0		
	A型肝炎	0	154	0	8	3	346		レプトスピラ症	0	16	0	4	0	20	0	0		
	エキノコックス症	0	13	0	0	0	17		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0		
	黄熱	0	0	0	0	0	0		アマーバ赤痢	2	611	0	63	7	845	0	0		
	オウム病	0	11	0	2	1	11		ウイルス性肝炎	1	190	0	13	3	222	0	0		
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		急性脳炎	1	202	0	13	0	241	0	0		
	回帰熱	0	0	0	0	0	1		クリプトスポリジウム症	0	7	0	0	0	16	0	0		
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	95	0	17	2	171	0	0		
	Q熱	0	0	0	0	0	2		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	159	0	9	3	127	0	0		
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	4	1,075	0	119	1	1,549	0	0		
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1		ジアルジア症	1	50	0	2	1	80	0	0		
	サル痘	0	0	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	0	0	7	0	0		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	0	0		
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		梅毒	6	561	0	90	9	621	0	0		
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0		破傷風	1	89	0	8	0	106	0	0		
	炭疽	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	チクングニア熱 <sup>(*)</sup>	0	6	0	0	-	-		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	44	0	9	2	121	0	0		
	つづが虫病	0	170	0	16	2	406		風しん	2	323	0	10	5	89	0	0		
	デング熱	1	78	0	12	2	245		麻しん	1	400	0	18	1	455	0	0		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	71	0	0	0	9	0	0	
								細菌性赤痢のサル	9	16	0	9	0	59	0	0			
								エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	0	0	0			

(\*)：感染症法の一部改正（平成23年2月1日施行）により、2月からの集計。－：未集計  
\*1 感染症発生動向調査事業年報（国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数）

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

### 滋賀県における全数報告感染症の概要 (10月)

＜結核＞ 29名  
性別：男性 18名、女性 11名  
類型：患者 15名  
無症状病原体保有者 14名  
病型：肺結核 11名  
その他の結核 4名  
無症状病原体保有者 14名

＜細菌性赤痢＞ 男性 7歳  
推定感染経路は不明で、推定感染地域は日本国内です。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞  
性別：男性 2名、女性 1名  
類型：患者 1名  
無症状病原体保有者 2名  
年齢：25歳、30歳、63歳  
血清型・毒素型：  
O157・VT2 1名  
O128・VT2 1名  
O不明・VT1 1名

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 10月の概要

#### <インフルエンザ>

先月とほぼ横ばいで、第40～43週(10/3～10/30)の間に、大津市および草津保健所管内からの報告があり、県全体の定点当たり患者数は0～0.02で推移していました。

#### <小児科定点疾患>

今月増加した疾患はRSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎および水痘で、他の疾患では減少していました。特に、RSウイルス感染症は、先月に引き続き増加しています。また、手足口病、ヘルパンギーナおよび流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)では、先月より大幅に減少しています(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

RSウイルス感染症-----過去(平成16～22年)同時期の発生状況と比較すると、先月に引き続き、定点当たり患者数はかなり多くなっていました。また、第1～43週(1/3～10/30)の年齢群別の発生割合は、下記グラフに示すとおりで、0～1歳 78%、2～3歳 19%で全体の97%を占めていました。全国においても、3歳以下で全体の90%以上を占めています。

手足口病-----第40～43週(10/3～10/30)の定点当たり患者数は2.34～2.63で推移し、昨年同時期よりかなり多くなっていました。また、甲賀および長浜保健所管内では、警報終息基準値(定点当たり患者数2.00)を超えていました。

#### <眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

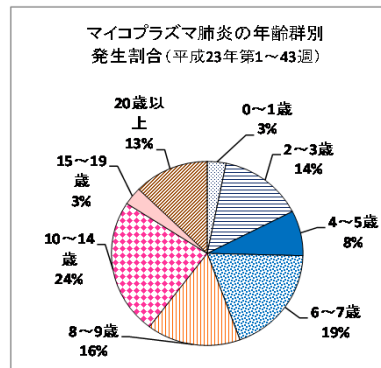
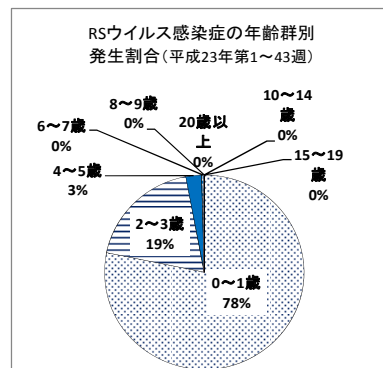
眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より増加し、先月と同様、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患の細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は東近江保健所管内からの報告のみでした。マイコプラズマ肺炎は先月よりやや増加し、大津市、甲賀、東近江および彦根保健所管内からの報告があり、大津市および東近江で多くなっていました。マイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合は下記グラフのとおりです。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <インフルエンザ(入院)>

滋賀県における第40～43週(10/3～10/30)の報告はありませんでした。また、全国では、9名の報告がありました。

#### <疑似症定点からの報告> 報告はありませんでした。

RSウイルス感染症およびマイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合  
(平成23年第1～43週、H23.1.3～H23.10.30)



#### <各定点の対象疾患>

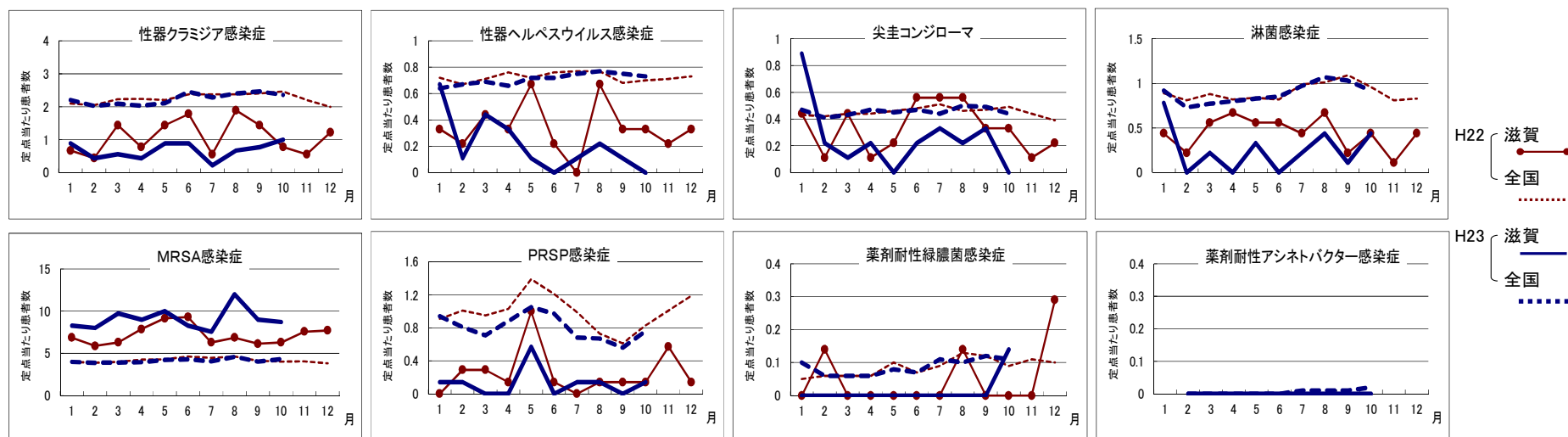
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23年10月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6	7	9			61
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67	0.78	1.00			6.78
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2	1	0			19
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22	0.11	0			2.10
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2	3	0			23
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22	0.33	0			2.54
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4	1	4			23
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44	0.11	0.44			2.54
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84	63	61			634
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00	9.00	8.71			90.57
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1	0	1			9
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14	0	0.14			1.27
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.14			0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 <sup>(*)</sup>	報告数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0

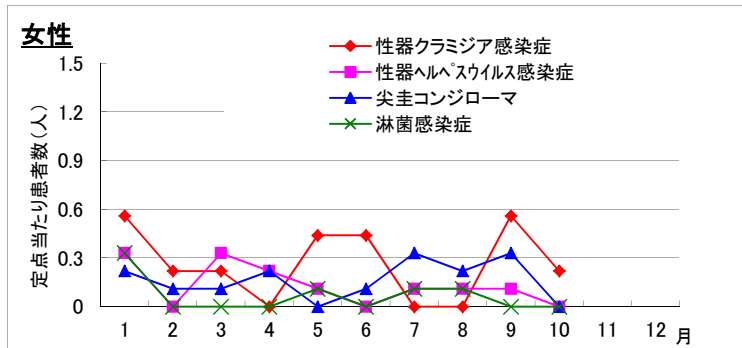
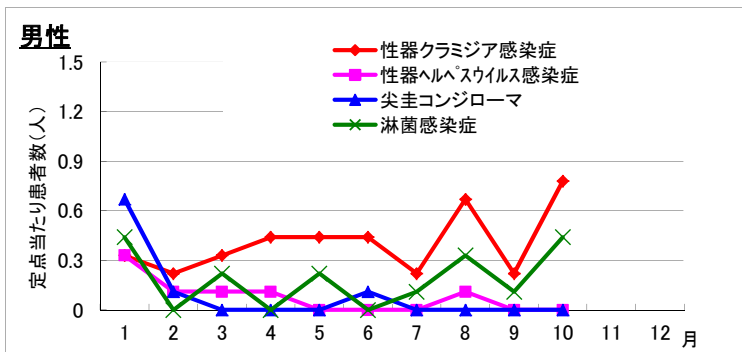
\*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-は未集計。



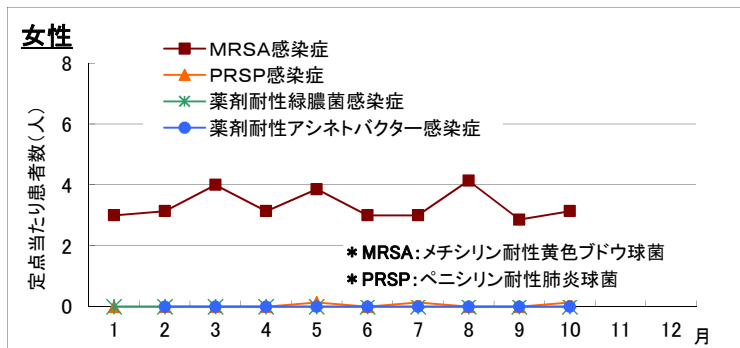
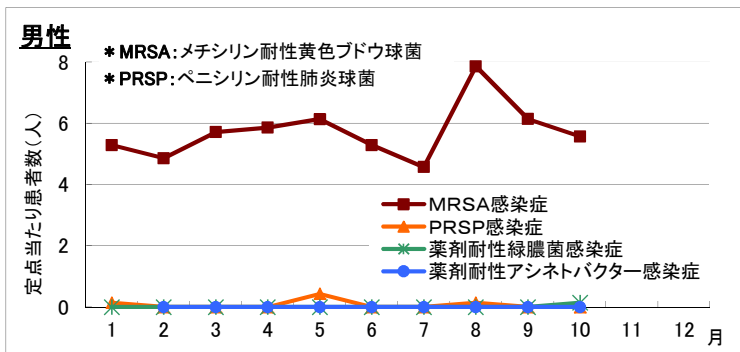
滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、淋菌感染症、PRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症で、減少した疾患はMRSA感染症です。また、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマおよび薬剤耐性アシネトバクター感染症は報告されていません。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

**性感染症定点における疾患別発生状況**  
(H23.10)



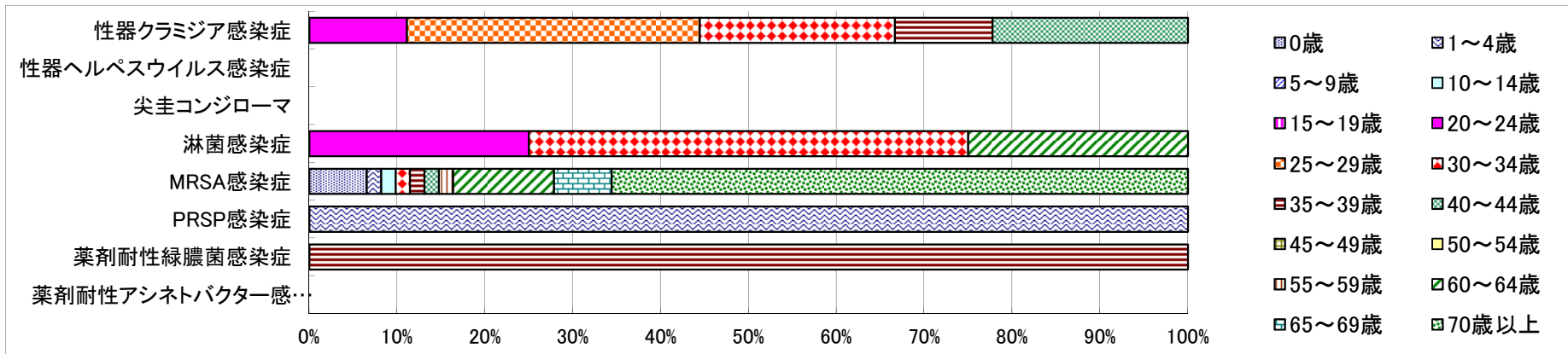
**基幹定点における疾患別発生状況**  
(H23.10)



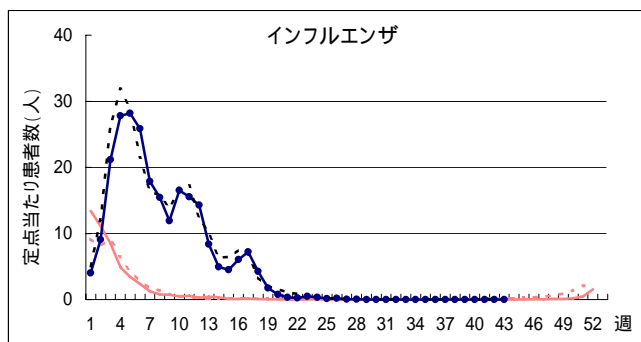
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症では、男性で大幅に増加していましたが、女性で減少していました。淋菌感染症では、男性で大幅に増加し、女性からの報告は、先月に引き続きありませんでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、20～34歳からの報告がやや多くなっています。

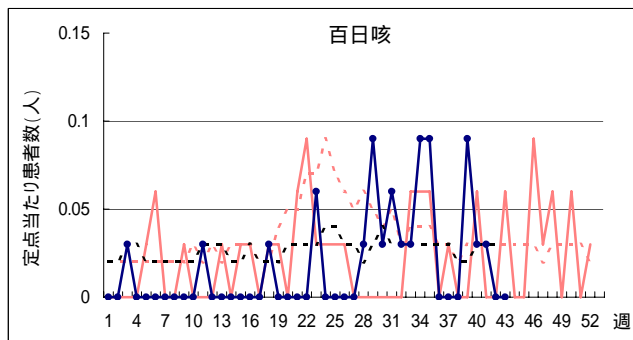
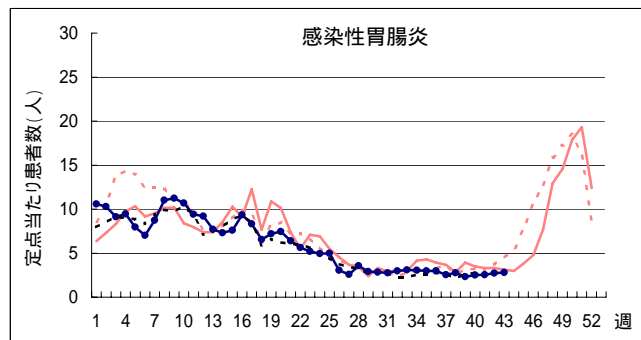
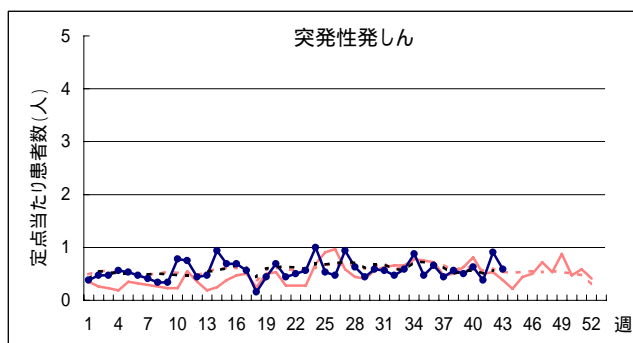
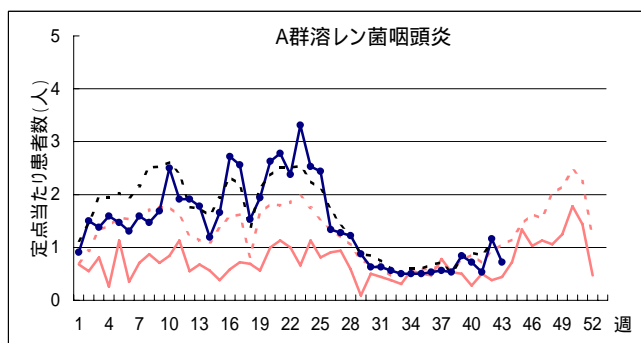
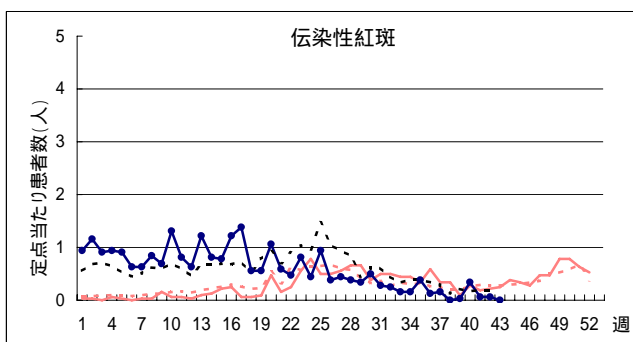
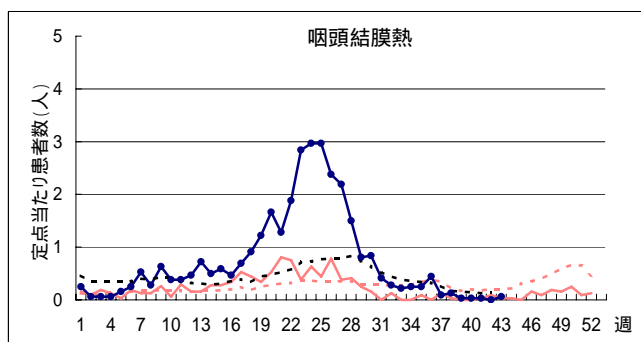
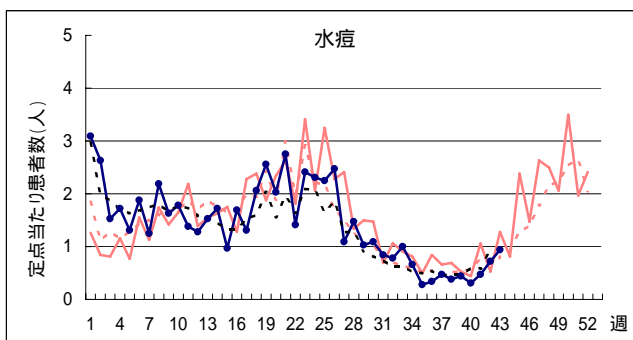
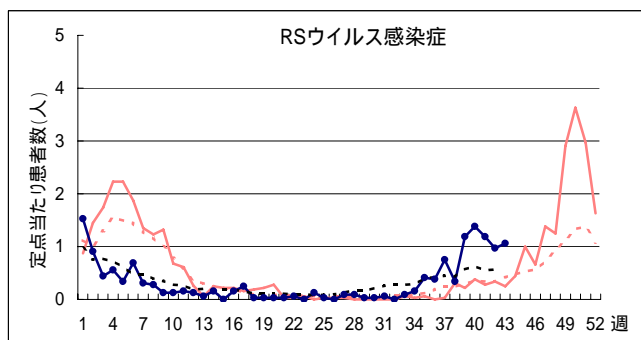
**疾患別・年齢別発生状況(H23.10)**



# 疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1～43 週、H23.1.3～H23.10.30)



H22 { 滋賀 ————  
全国 .....  
H23 { 滋賀 —●—  
全国 .....  
週



# 疾病別定点当たり患者数 (平成23年第 1 ~ 43 週、H23.1.3 ~ H23.10.30)

H22 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
H23 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕

